

令和7年度 小川町高齢者新型コロナウイルス感染症予防接種 令和7年10月1日(水)～令和8年1月31日(土)実施

対 象 者 小川町に住民票がある次の方

- (1)接種日に 65 歳以上の方 ※誕生日の前日から接種できます
(2)接種日に 60 歳以上 65 歳未満で、心臓、腎臓、呼吸器の機能もしくはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障害がある身体障害者手帳 1 級の方

回 数 1 回

自己負担金 12,000円 (町負担額を差し引いた額)

生活保護受給者は受給証提示にて無料

持 ち 物 マイナ保険証 (生活保護受給者は受給証)

対象者 (2) の方は、身体障害者手帳又は医師の診断書の写し
予診票 (町外医療機関を希望する方のみ※)

受診方法 ①実施医療機関で予防接種の予約をする。

②マイナ保険証等を持参し、接種を受ける。このとき、該当する方は予診票、受給証、身体障害者手帳を持参する。

③接種後、12,000円を医療機関に支払う (生活保護受給者は受給証提示で無料)。

※町外医療機関で接種される方は、事前に健康福祉課までご相談ください。
(予診票が必要となる場合や、全額自己負担となる場合があります)

町内実施医療機関

医 療 機 関 名	電 話	医 療 機 関 名	電 話
いわほりクリニック	71-6601	鈴木医院	72-1215
内田医院	72-0516	瀬川病院	72-0328
大野クリニック	74-1868	竹澤診療所	74-1117
小川赤十字病院	72-2333	田嶋医院	72-0138
木下医院	72-0375	パークヒルクリニック	74-4125
宏仁会小川病院	73-2750	みやざきクリニック	72-2233
さつき内科クリニック	71-6050	柳澤医院	72-0024
真田医院	72-8020		

—裏面もお読みください—

新型コロナウイルス感染症予防接種説明書

(必ずお読みください)

令和6年度以降の新型コロナウイルス感染症の予防接種は、個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的とし、高齢者インフルエンザと同様の定期接種（B類）として実施します。予防接種は、本人の意思に基づいて受けるものです。説明書をご覧になり、理解したうえで接種してください。また、本人の意思確認が難しい場合は、家族やかかりつけ医の協力により、慎重に本人の希望を確認してください。最終的に確認できなかった場合は接種できません。

新型コロナウイルス感染症について

症 状

新型コロナウイルス感染症の代表的な症状は、のどの痛み、咳、発熱、頭痛、全身のだるさなどがあります。また、個人差がありますが味覚や嗅覚を感じにくい症状がでることもあります。

予防接種について

有効性と副反応

新型コロナウイルス感染症の予防接種については、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに国内外で実施された研究などにより、感染した場合の入院や死亡、重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。副反応としては予防接種の注射の跡が、赤く腫れる・痛みが出る、頭痛、全身のだるさ、発熱、寒気等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

稀な頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もしアナフィラキシーが起きたときには医療機関で治療を行うことになります。また、頻度としてはごく稀ですが、心筋炎や心膜炎を疑う事例も報告されています。

予防接種健康被害救済制度

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような健康被害が生じた場合には、その健康被害の状況に応じて予防接種法に基づく補償を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと判断された場合に限り、補償を受けることができます。

予防接種を受けることができない方

- ・明らかに発熱がある場合（体温が37.5℃以上）
- ・重篤な急性疾患にかかっている場合（病気の進展状況が不明であるため接種できません）
- ・新型コロナウイルス感染症の予防接種に含まれる成分によってアナフィラキシーなど重度の過敏症※の既往歴のある場合

※アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘息、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

- ・その他、医師が不適当な状態と判断した場合

予防接種を受ける時に注意が必要な方

- ・抗凝固療法を受けている方、血小板減少症又は凝固障害を有する方

予防接種を受けない場合

当日の身体状況等により接種をしなかった場合、その後新型コロナウイルス感染症に罹患、あるいは罹患したことによる重症化、死亡が発生した場合、医師にその責任を求めることはできません。